

令和6年度 第1回進路説明会

世田谷区立烏山中学校

日 時 : 令和6年6月8日(土) 10時10分～11時00分

場 所 : 世田谷区立烏山中学校 体育館

内 容 : (1) 校長あいさつ
(2) 学年主任より
(3) 現時点における進路に関する説明
(4) 質疑応答

3年____組____番 氏名_____

目 次

1	進路に対する心構え	．．．．． P. 1
2	本校の進路指導	．．．．． P. 4
3	高等学校の種類	．．．．． P. 6
4	入試制度	．．．．． P. 9
5	推薦を希望するにあたっての確認事項	．．．．． P.17
6	今後の進路日程予定	．．．．． P.19
7	今後の学校生活について	．．．．． P.20
8	その他	．．．．． P.21
9	過去3年間の主な進路先一覧	．．．．． P.22

全国では全高校生の約1.4%が、せっかく入学した高校なのに「進路変更」や「学校生活不適應」などの理由で中途退学してしまいます。令和3年度の中退者は約3万9000人にのぼります。

高校に入るだけが目的になっていて高校に入ってから学習や生活についての事前学習や意識が足りないことも見逃せません。

進路を選ぶ目的や進路先の状況を、早いうちからしっかりと考えておく必要があります。この進路説明会が、進路選択を考えるきっかけとなることを願います。

進路は難しくいえば「全人格的に」取り組んでいくものです。単に学習の成績だけが問われるのではなく、忍耐力、計画力、まじめさ、思いやり、常識やその場に適した判断をする力、決断力、表現力、思考力など、様々な力が必要になっていきます。

また、それらは日常生活の中で身につけ、学習していくものでもあります。試験前の学習のみでは身に付きません。家庭でも数字（成績）に表れないところにしっかりと目を向け、自分の将来について真剣に考えてほしいと思います。

1 進路に対する心構え

（１）進路選択とは

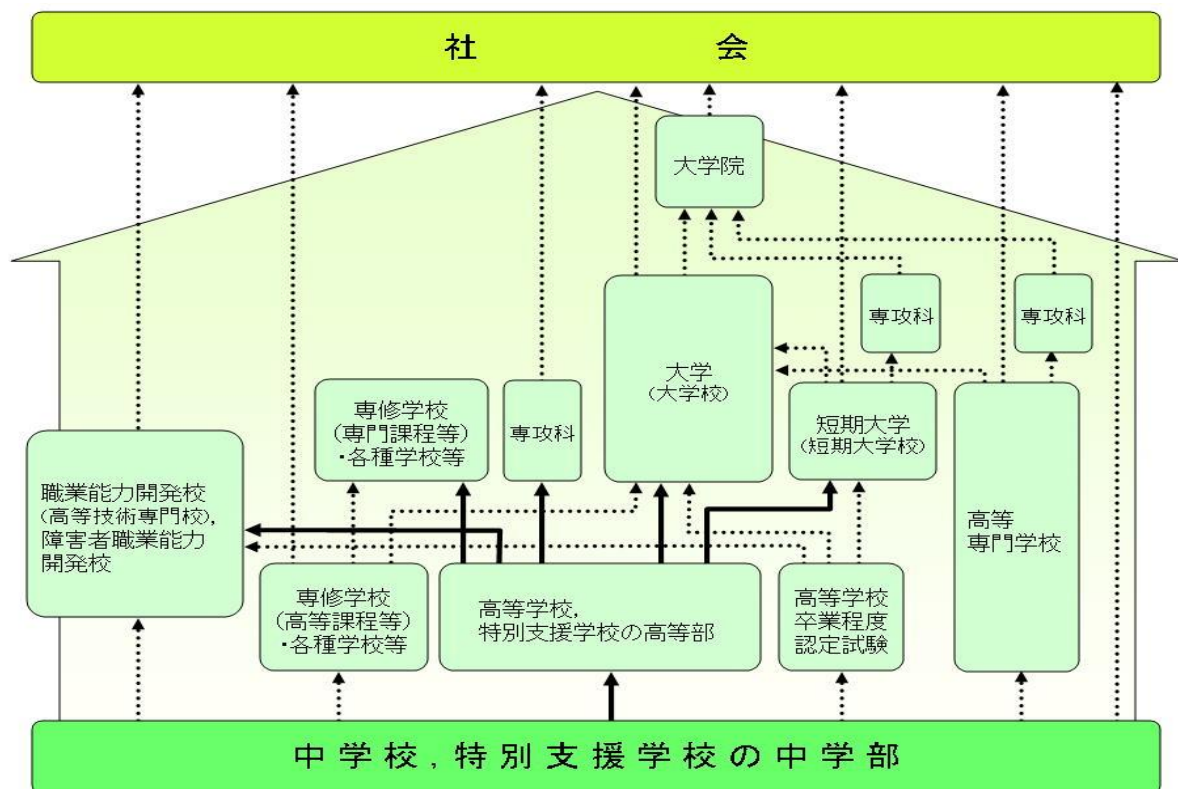
将来、自分がどう生きていくかを考え、それを実現するための入口

- ① 将来、自分の希望する職業に就くために必要となる知識や技能を学ぶことを見通した選択をしましょう。
- ② 自分の個性や適性を考えて、ひとりひとり別々の進路であることを意識しましょう。
- ③ 自分の学力との関係をよく考えて進路選択に活かしましょう。
- ④ 生徒が家族や学校と十分に相談しながら、自分の意思と希望をはっきりと伝えて、最終的に自分で進路選択ができるようにしましょう。

（２）準備

- ① 基本的な生活習慣と人間関係はすべての土台。学年全体でよいムードを作りましょう。
- ② 一人一人、輝けるように。他人との比較、不用意・無責任な発言には注意しましょう。
- ③ 授業に真剣に取り組む。当たり前の学習習慣を身につけ、それを大切にしましょう。
- ④ 一人で思い悩まず、いろいろな人と相談して決めましょう。そのために人の意見を聞き入れる素直な気持ちを大切にしましょう。
- ⑤ 情報を見極め、惑わされないようにしましょう。
希望する学校の説明会や体験入学、希望する就職先の見学などに積極的に参加すること。

(3) 中学校の卒業後の進路



① 就 職

* 公共職業安定所（担当：ハローワーク渋谷）

* 縁故

② 進 学

* 高等学校（全日制・定時制・通信制など）

○ 設置者の違いにより都立・私立・国立がある。

○ 学科は大きく分けて3つ（普通科・専門学科・総合学科）

* 高等専門学校

○ 5年課程の高等教育機関。卒業後は大学編入資格が得られる。

○ 理工系分野

* 高等専修学校・専修学校

○ 職業や実生活に役立つ、実務にウェイトをおいた教育を行っている。

○ 3年制の高等専修学校においては高校卒業資格が得られる。

○ 工業、農業、医療、衛生、教育・社会福祉、商業実務、服飾・家政、文化・教養の8分野

③ その他

◇各種学校

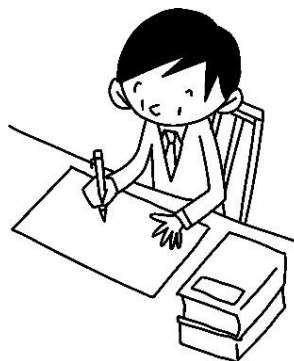
実生活に役立つ知識や技能を身につける。高校卒業資格は得られない。

◇サポート校（通信制高校と連携して、高卒資格を取得できる学校もある）

◇フリースクール等

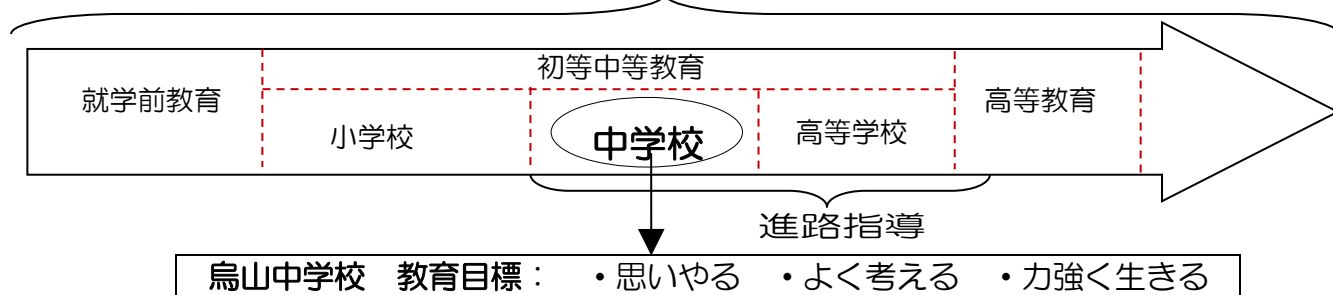
◇企業内学校

企業が社員の教育のために設置した学校で、生徒は採用を前提に入学し、教科とともに、各企業で必要となる実践的な技能を学ぶ。通信制高等学校と技能連携し、高等学校卒業の資格を取ることができる。



2 本校の進路指導

『進路選択についての基本的な考え方』～本校キャリア教育に基づく進路指導～
キャリア教育



烏山中キャリア教育全体目標

自己の理解を深め、夢や希望をもって、将来の生き方や生活を考え、自ら学んでいこうとする生徒の育成

	身につけさせたい力（基礎的・汎用的能力）			
	人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
第1学年	・自己と他者の違いに気付き、尊重しようとする。	・自分の良さや個性がわかる。	・集団の一員としての役割を理解し、果たそうとする。	・将来に対するおおまかな夢やあこがれを抱く。
第2学年	・自分の言動が、他者に及ぼす影響について理解する。	・社会の一員としての自覚が芽生え、社会や大人を客観的にとらえる。	・社会と自分とのつながりに気付き、責任を果たそうとする。	・将来への夢を達成する上で、現実の問題に直面し、模索する。
第3学年	・自己と他者の個性を尊重し、人間関係を円滑に進める。	・最終学年を送る心構えと現実を見つめる決意をもつ。	・社会の一員としての参加には義務と責任がともなうことを理解する。	・将来設計を達成するための困難を理解し、それを克服するための努力に向かう。

＜生徒＞日常の授業を大切にし、学級活動や行事などにもしっかりと取り組み、自分で進路を切り拓く。

＜学校＞全職員で情報提供と助言をします。

＜保護者＞進路選択の相談役・協力。

今、中学校で行っている一つひとつの取り組みが、将来の展望・役割まで影響します。

(1) 本校の進路指導の方針

- ① 一人一人の生徒の可能性を伸ばすように支援していきます。
- ② 生徒が進路を適切に選択できる能力を養えるよう様々な面でバックアップしていきます。
- ③ 進路についてはいろいろな情報がありますが、その中からもっとも適当と思われる資料を用意し、生徒・保護者の皆様に提示していきます。
- ④ 進路指導については担任だけでなく、学年教員、進路指導部で相談しながら、学校全体で責任を持ってあたっていきます。

(2) 学校選び

① 自分にとって「よい学校」を選ぶ

- ア 将来の目的達成を可能にしやすい学校
- イ 個性や特色をのばし、生かせる学校
- ウ いろいろな点から考え、自分で行きたいと強く思っている学校
- エ 無理せず、自らが意欲を持って楽しく学べる実力相応の学校
- オ 遠すぎず諸活動への参加が可能な学校



② 「よい学校」選びのポイント

ア 各学校の特徴

* 授業形態（教科・科目など）	* 行事・部活動
* 学校施設	* 特色ある学校独自の取り組み
* 進学・就職指導（卒業後の進路）	* 学校ルール・校則
* 学校規模（クラス数、教員数など）	* 海外交流の有無
* 大学、短大への指定校推薦や優先入学制度の有無	など

イ 学費など費用

ウ 通学環境・地域環境

情報を集める方法

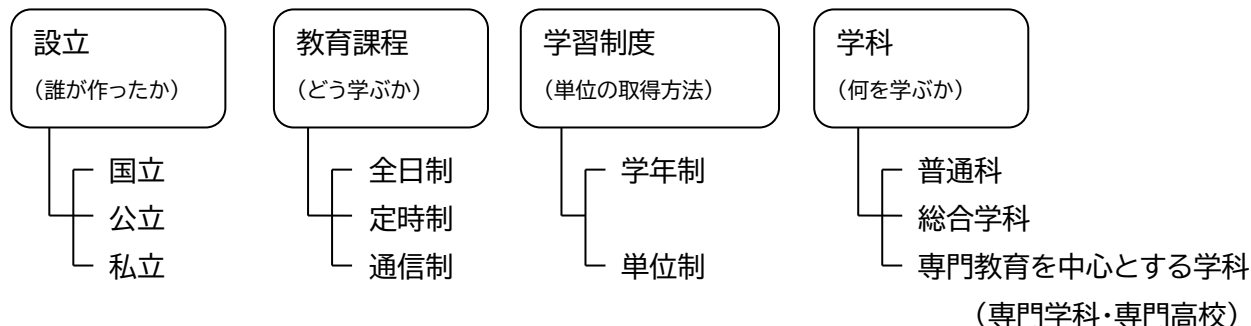
- ① 中学校
- ② 書籍、パンフレットなど
- ③ 学校説明会などへ参加
- ④ インターネットなど

※東京都教育委員会や各学校ホームページ等で確認してください。

③ 高等学校の種類 と 高等専門学校、高等専修学校

★高等学校の種類★

多くの中学生が進学する高等学校。ただ、高等学校と一口にいても、様々な高等学校があります。上級学校調べでも学習しました。再度確認していきましょう。



(1) 誰が設置しているかで分類

①都立高校	◇地方自治体（東京都）が設置した学校。（都立〇〇高等学校） ◇東京都在住者のみしか受験出来ません。学区制度はありません。 ◇東京都教育ビジョンに基づき、学校ごとに教育方針を掲げています。
②私立高校	◇建学の精神に基づき、独自の教育方針を採った学校法人が設置した学校。 ◇教育方針は各学校によって異なります。カリキュラムも学校によって様々です。
③国立高校 ※ ¹	◇基本的には学区制度はありません。 ◇国立大学付属の研究校として位置付けられています。募集人数も少数で入試難度も高いです。国立大学の付属だからといって、エスカレーター式に大学へ進学できるわけではありませんので注意しましょう。（学校によっては推薦枠があります。）

※¹ 国立高校は都立高校とは受験方法が異なりますので注意してください。

(2) 課程について（授業を受ける時間帯）

①全日制課程	朝から午後までの日中に授業があります。（3年間）
②定時制課程	①夕方(夜間)だけの授業を行う定時制高校。修業年限は4年。 ②昼間(午前・午後・夜間)の三部制の授業を行う昼夜間定時制高校。 修業年限は原則4年だが、3年でも可)
③通信制課程	通学せず、郵便やオンラインなどを活用し、自宅やサポート校で学習する。スクーリングという決められた時間・時期の登校授業もある。 修業年限は3年以上。 ※サポート校とのWスクールになることがある。

(3) 教育内容について

都立高校

《進級・卒業のシステム》

学年制	学習する教科・科目が学年ごとに決められており、その学習成果が認められると単位が与えられ、次の学年に進級する制度。全日制は3年、定時制は4年（3年も取り方によって可）を修了すると、卒業が認められます。
単位制	学年の区別がなく、必要な科目の単位を3年間で取得すると卒業できる。 たとえその年に取得できなかった単位があったとしても翌年にその科目を取り直せばいいので単位制高校には授業に関して留年がない * 欠席日数で原級留め置きとなることがある

《学科の種類》

普通科	普通科	国語、地理歴史、公民、数学、理科、保健体育、芸術、外国語、家庭、情報の各教科を中心に学習します。各教科は、更にいくつかの科目に分かれています。学校が定めた教育内容に従い、定められた科目や自分で選択した科目を学習します。 「進学指導重点校」「進学指導特別推進校」「進学指導推進校」 * ¹ 「エンカレッジスクール」も含まれます。
	コース制	普通教育を受けながら自分の志望に合った分野を深く学びます。 「外国語」「造形美術」
専門学科	卒業してから実社会に出てすぐに役立つ専門知識や技術を学びます。普通科一般科目の教科もあります。 「農業」「工業」「科学技術」「ビジネス・商業」「ビジネスコミュニケーション」「家庭」「福祉」「体育」「国際」「産業」「芸術」「併合」「理数」「海洋国際（水産）」企業と連携している* ³ 「デュアルシステム科」もあります。	
総合学科	幅広い選択科目の中から自分で選択し学ぶことが可能で、個性を活かした主体的な学習ができます。全日制の他に、定時制の* ² 「チャレンジスクール」もあります。	

*¹「エンカレッジスクール」

基礎基本をしっかり身につけ「生きる力」を育てる教育を特色としている学校。
中学校で勉強についていけなかったけれど、高校でやり直したいという意欲のある生徒にきめ細かい指導で学び直しを目指す。2人担任制・30分授業。
入試に学力検査がないのが特徴。調査書、小論文、面接で合否が決まります。

*²「チャレンジスクール」

自分のライフスタイルや学習ペースに合わせて各時間帯を選んで入学する昼夜間定時制総合学科。
午前8時30分～午後9時15分の間にもうけられた3つの部の3部制（定時制）のいずれかに在学するが、他の部の履修も一部できる。
学力よりも学ぶ意欲を重視。入試に学力検査がないのが特徴。
志願申告書と面接で合否が決まります。

*³「デュアルシステム科」

学校と企業で健全な職業人を育成する学校。
1年次でインターンシップ、2、3年次で企業に業訓練をおこない、それらを学校の単位として認定します。

私立高校

私立高校にもさまざまな学科やコースが設置されています。数が多いためここでは紹介しきれません。詳しくは各私立高校のHPで確認してください。色々調べてみましょう。

(4) 学費について

	受験料	入学金	※ ² 授業料(年間)	※ ¹ 初年度総額
①都立高校	2,200 円	5,650 円	118,800 円	244,000 円～ 417,000 円
②私立高校	10,000 円 ～35,000 円	約 150,000 円 ～400,000 円	平均 320,000 円	平均 1,177,000 円
③国立高校	9,800 円	56,400 円	115,200 円	都立高校よりは高くなります が私立高校よりは安い

※¹初年度総額には学校ごとの PTA 会費、修学旅行積立金、生徒会費、制服、通学費、教材費、施設費などを含んでいます。学校によりかなり金額に差がありますので、各学校のものをご確認ください。

※²2016 年 4 月より「高等学校等就学支援金」制度が導入されました。2024 年の制度改正で年収に関わらず、授業料が上限年間 48 万 4000 円まで助成されることになりました。詳しくは、リーフレットをご覧ください。

★高等専門学校と高等専修学校★

高等専門学校

5 年間にわたって一貫した専門教育を行う高等教育機関。

一般科目の他、専門科目（おもに工業系）についての高度な知識・技術を、実習・演習を通じて学ぶ。充実した実験・研究設備が整っており、学んだことを応用する能力が身に付く。卒業後、大学進学の場合は 3 年次への編入が可能。ロボコン大会が有名。

東京都内の高等専門学校は次の 3 校のみ。

- 【国立】東京工業高等専門学校（八王子市）
- 【都立】産業技術高等専門学校（品川キャンパス、荒川キャンパス）
- 【私立】サレジオ工業高等専門学校（町田市）

高等専修学校

社会に出てすぐに役立つ知識や技術を専門的に学ぶ学校です。

それぞれの学校の授業には多くの実習があり、体験的・実践的な学習を通して専門的な知識や技術・技能を身につけることができる。

学科によって 1 年制から 3 年制までいろいろなコースがある。

東京の専修学校には専門課程を併せ持っている学校（専門学校）も多く、高等課程の 3 年を卒業すると専門課程に進むことができる。学校によっては、短大や大学の入学資格を得るところもある。（大学入試資格付与指定校）

また、高等学校の通信制や定時制と技能連携をしている専修学校では、高等学校卒業の資格を同時に得られます。

4 入試制度

(1) 都立高校

推薦入試

*以下は昨年度の入試制度です。都からの正式な通知は9月ごろになる予定です。

① 種類（2種類）

一般推薦	定員	◇全日制普通科で募集人員の20%以内。コース制は30%以内、エンカレッジスクールは30%以内とする ◇全日制専門学科で募集人員の30%以内。 ◇全日制総合学科は募集人員の30%以内。 ◇工業・農業・商業に関する学科は募集人員の40%以内。
	選抜基準	基礎的な学力を前提に、思考力、判断力、表現力等の課題を解決するための力や、自分の考えを相手に的確に伝えるとともに、相手の考えを的確に捉え人間関係を構築するためのコミュニケーション能力など、これからの社会にあって生徒たちに必要となる力を評価し、選抜する。
文化・スポーツ等 特別推薦	定員	◇推薦に基づく選抜の対象人数枠の中に内数として特別枠を設ける。 その人数は各都立高校長が適切に定める。
	選抜基準	各都立高校の個性化、特色化を推進するため、卓越した能力をもつ生徒の力を評価し、選抜する。

② 入試日程

入学願書受付日	令和7年1月9日（木）～16日（木）
実施日	令和7年1月26日（日）・27日（月）
合格発表日	令和7年1月31日（金）

※昨年度から全学校 Web 出願になりました。

③ 選考の基本方針

＜必須＞ 調査書、個人面接

+

＜その他＞ 小論文 or 作文、集団討論、実技検査、学校設定検査

◇学力検査は実施しません。昨年度集団討論は13校で実施。

◇調査書点（内申点）は3年次の評定もしくは観点別評価を点数化する。

調査書点の満点を何点にするかは、学校ごとに決める。

◇自己PRカードは点数化されないが、面接資料で用いられる。

◇文化・スポーツ等特別選考推薦書の推薦理由や活動の実績等を証明する書類等の写しは配慮される。

【調査書点の換算について】

《評定（５段階）を用いる場合》

$$\frac{\text{本人の評定の得点} \times \text{調査書点の満点}}{\text{評定の満点（４５）}}$$

＝本人の調査書換算点

《観点別学習状況（３段階）を用いる場合…ＡＢＣを得点化する》

$$\frac{\text{本人の観点別学習状況の得点} \times \text{調査書点の満点}}{\text{観点別学習状況の評価の満点（各校によって違う）}}$$

＝本人の調査書換算点

※詳しくは東京都教育委員会から配布されるリーフレットをご覧ください

④ 出願資格

- ◇該当学科を志望する目的意識が明確である、その理由が適切である。
- ◇該当学科に対する適性および興味、関心が明確である。
- ◇人物が優れている。
- ◇学習成績が良好である。

<注意事項>

- ◇出願したら必ず受検する。
- ◇合格したら必ず入学する。合格後は他の高校は一切受験できない。
- ◇特別推薦は実施する都立高校の種目等から１種目指定、１コースまたは１科に限り出願できる。また、特別推薦と同時に、同一校の一般推薦にも出願できる。
- ◇推薦入試で不合格の場合、一般入試で同じ高校を受検することが可能。

☆推薦受検の可能の判断について☆

本人と保護者の申請に基づいて、

《学年、学校全体の教員が協議し、最終的に学校長が判断して決定する》

学力検査に基づく選抜

① 種類（２種類）

一次募集 (二次募集)	◇募集人員（推薦合格人数を引いた人数）を１回で選抜する。 ◇二次募集は一次募集で募集定員に満たない場合のみ行われる。 (募集がない場合の方が多い)
分割募集 (前期・後期)	◇あらかじめ募集人数（推薦合格人数を引いた人数）を前期と後期の２回に分けて選抜する。 ◇分割前期募集は一次募集と同じ日程、分割後期募集は二次募集と同じ日程で行われる。 ◇一般入試の定員を前期と後期に分けると、分割後期は倍率が高くなり合格ラインは前期よりもあがる。

② 入試日程

	一次募集・分割前期	分割後期・二次募集
入学願書受付日	令和７年１月３０日（木） ～２月５日（水）	令和７年３月 ６日（木）
実施日	令和７年２月２１日（金）	令和７年３月１１日（火）
合格発表日	令和７年３月 ３日（月）	令和７年３月１４日（金）

③ 選抜方法

調査書、学力検査（学校によって面接、小論文または作文、実技検査）を総合した成績（総合得点）で判断される。

<一般的な選抜方法>

【学力検査について】

◇試験科目は５教科（国数英社理）がほとんどだが、３教科（国数英）のところや面接、作文を実施するところもある。（分割後期・２次募集は３教科で実施。）

◇多くの学校でマークシート方式の学力検査を行う。

◇英語は最初の１０分間にリスニングテストがある。

◇特別な選抜方法を実施している学校がある。

⇒男女別定員数の緩和、グループ作成問題、自校作成問題、傾斜配点、特別選考

◇自己ＰＲカードは点数化されないが、面接資料として用いられる。

出願時ではなく、合格後に提出する学校もある。

※エンカレッジスクールや定時制の一部の高校などは実施しない。

◇次の学校は国語・数学・英語３教科を自校作成問題実施校です。

日比谷・戸山・西・青山・八王子東・立川・国立・新宿・墨田川・国分寺

※国際高校では英語のみ自校作成問題で選抜試験が実施されます。

【調査書点の換算について】

総合得点に使われる調査書点は、学力検査を実施する教科の評定と実施しない教科の評定を分け、実施しない教科の評定に重みづけをして合計する。これを換算内申という。

	学力検査を実施する教科		学力検査を実施しない教科		換算内申（満点）
5教科入試	評定数値をそのまま合計	+	評定数値の合計を2倍	=	65
3教科入試					75

**調査書点に用いられる数値は3年次2学期に通知する9教科の評定。
（この評定は3年次の1，2学期の成績を合わせて評価する）**

【総合得点に換算する方法】

学力検査の得点と調査書点を以下の割合でそれぞれ換算し、合計得点にスピーキングテスト20点分足したものを総合得点という。

学力検査と調査書点の比重	合計得点（1000点満点）内の意味
↓	
（学力検査：調査書）	（学力検査の得点＋調査書点＝合計得点）
7：3	700＋300＝1000
6：4	600＋400＝1000



☆総合得点（1020点満点）に換算する計算式（5教科受検、7：3の場合）☆

$$\begin{aligned}
 & \boxed{\text{自分の学力検査点}} \times \frac{700}{500} + \boxed{\text{自分の換算内申点}} \times \frac{300}{65} \\
 & + \text{スピーキングテスト20点分} = \boxed{\text{総合得点}}
 \end{aligned}$$

<注意事項>

- ◇国立、私立高校に進学を決めた場合、原則的に都立受検はできません。
- ◇分割後期、二次募集についてはひとりでも多くの生徒の都立高校への進学を保証する趣旨から、進学する意志のない場合は受検を控えてください。

【スピーキングテスト(ESAT-J)について】

スピーキングテストの結果は、第一次募集・分割前期募集において活用することになっています。

*エンカレッジスクール、チャレンジスクール、英語学力検査を実施しない学校は対象外です。

(1) スケジュール

ESAT-J 受験から結果を都立高等学校へ提出するまで

令和6年11月24日(日)
(*予備日)12月15日(日)

令和7年1月中旬

令和7年2月上旬

ESAT-J 受験
(外部会場)
都立学校、大学、民間施設等

ESAT-J 受験
個人及び中学校
スコアレポートの受取

都立高等学校へ
調査書の提出

*予備日はインフルエンザ等学校感染症への罹患等の理由で、実施日に受験することができなかった場合

(2) 評価の点数化について

AからFまでの6段階で提出された評価を、次のとおり20点満点の点数として取扱います。

ESAT-J 結果(評価)	A	B	C	D	E	F
都立高等学校で取り扱う点数	20点	16点	12点	8点	4点	0点

(3) 令和6年度(昨年度) 出題形式

Part	出題のねらい	出題形式	出題数
A	英文を読み上げる形式の問題で英語音声の特徴を踏まえ音読できるかをみる。	英文を読み上げる	2
B	図示された情報を読み取り、それに関する質問を聞き取った上で、適切に応答する力や図示された情報をもとに「質問する」「考えや意図を伝える」「相手の行動を促す」など、やり取りをする力をみる。	質問を聞いて応答する 意図を伝える	5
C	日常的な出来事について、話の流れを踏まえて、相手に伝わるように状況を説明する力をみる。	ストーリーを英語で話す	1
D	身近なテーマに関して聞いたことについて、自分の意見とその意見を支える理由を伝える力をみる。	自分の意見を述べる	1

*令和6年度の概要とサンプル問題は東京都教育委員会ホームページにあります。

(2) 私立高校

推薦入試

* その学校が第一志望で合格したら必ず入学することを条件で受けられる制度。

* 12月中旬の入試相談（中学校の先生と高校の先生で行われる事前相談）を経て出願。
（入試相談が必要ない高校もあります。）

① 入試日程 （私立学校により多少日程は、前後する。）

願書提出	1月15日～19日 *私立学校によっては12月から行っているところもある。
選抜日	1月22日～
合格発表	1月23日～

② 選抜方法

- ◇多くの高校では学力検査は行わず、中学校から送る書類（調査書・推薦書）・面接・作文等で合否の判定を行う。
- ◇適性検査（3教科）を実施する高校もある。
※不合格の場合もあるので第2志望校も検討しておく。
- ◇面接は学校により、個人面接か集団面接になる。
- ◇スポーツや芸術関係の場合、実技検査があることが多い。

③ 推薦基準

- ◇入学志望や目的意識が明確であり、その理由が適切であること。
- ◇人物が優れていること。生活指導上問題なく、心身ともに健康であること。出席状況（遅刻、早退、欠席）が高校側の推薦基準を満たしていること。
- ◇学習成績が良好であり、教科の評価点が高校側の推薦基準を満たしていること。

本人と保護者の申請に基づいて、

《学年、学校全体の教員が協議し、最終的に学校長が判断して決定する》

<注意事項>

- ◇高校の説明会や学校見学会、体験学習などは必ず参加すること。（説明会、見学会は親子で参加すること。参加することが推薦条件の学校があります。）
- ◇入試相談後の変更はできません。
- ◇推薦枠は決まっているため推薦基準に満たしていても一般入試にまわる場合もある。
- ◇出願したら、必ず受験する。
- ◇合格したら、必ず入学をする。合格後は他の高校は一切受験しない。推薦2校はなし。
- ◇推薦入試で不合格になっても、一般入試で同じ高校を受験できる。
- ◇スポーツや芸術関係でセレクション等がある場合は中学校（担任）へ連絡してください。

一般入試

※併願優遇制度がある（12月中旬の入試相談を経て出願）

① 種類（大きく2通り）高校により名称が異なる

<優遇制度：併願優遇、第一志望優遇など>

一般	◇基準、条件はない。
併願優遇	<p>◇他校が第一志望で、第一志望が不合格の場合には必ずその第二志望に入学することを条件に入試得点に加点するなどの形で優遇してもらう制度。第一志望校を都立・公立に限定する場合と他の私立を第一志望にすることを認めている場合もある。 （主に都立併願で、都立一次合格発表まで入学金の納入を待ってもらえる学校が多い）</p> <p>◇入試相談を経て、出願基準を満たす。⇒基準は<u>推薦基準より高い</u>。 ⇒合格の可能性は一般入試受験より高くなる。</p>
第一志望優遇	<p>◇<u>合格すれば必ずその学校に入学することを条件</u>として、入試の得点に加点したり、ボーダーライン上で優遇してもらう。</p> <p>◇入試相談を経て、出願基準を満たす。（基準は併願優遇より低い）</p>

② 入試日程（私立学校により多少日程は、前後する。）

願書提出	1月中旬～
選抜日	2月10日～
合格発表	2月11日～

*選抜日の午後に合格発表される私立学校もある。

③ 選抜方法

調査書、学力検査、面接、作文、（適性検査）の総合で判断される

- ◇学力検査は3教科がほとんど。
- ◇面接は学校より、個人面接か集団面接になる。（令和5年度はない学校もあり。）
- ◇学力検査の比重が高い傾向がある。（面接を重視する学校もある）

④ 優遇基準

- ◇入学志望や目的意識が明確であり、その理由が適切である。
- ◇人物が優れていること。生活指導上問題なく、心身ともに健康である。出席状況（遅刻、早退、欠席）が高校側の基準を満たしている。
- ◇学習成績が良好である。内申（教科の評価点や欠席等）が高校側の優遇基準を満たしている。

内申や欠席等の基準は各学校によって様々です。基本的に各高校の基準を満たしていれば優遇可能です。

<注意事項>

- ◇高校の説明会や学校見学会、体験学習などは必ず参加すること。（説明会、見学会は親子で参加すること。参加することが併願優遇条件の学校があります。）

※10月頃の説明会や個別相談会で、「合格」のように言われることもあるようですがこの段階で決定となるわけではありません。正式に入試相談を行うことが必要です。

◇優遇制度利用の場合

- ・入試相談後の変更はできません。
- ・出願、受験は必ずする。ただし、推薦入試で合格した場合は辞退することができる。

第一志望優遇

⇒合格したら必ず入学する。合格後は他の高校は一切受験できない。

併願優遇

⇒第一志望校が不合格になった場合は必ず入学する。合格後は第一志望校以外の高校は受験できない。（受験する高校が複数受験を認めている場合を除く。）

(3) 国立高校

※例年の場合

- *国立高校は、都立高校とは受験方法が多少異なります。希望がある場合は早めに担任にご相談ください。
- ◇基本的には学区の制度はない。通学時間に制限を設けている場合がある。
- ◇選抜方法は調査書、学力検査（ほとんど5教科、東工大は3教科）、面接などの総合で判断される。
- ◇近隣では東京工業大学附属科学技術高等学校だけが推薦入試制度がある。
- ◇一般入試の出願時期は1月より始まる（推薦入試は12月）
- ◇一般入試の試験日は、6月頃に公開となっています。※昨年度は2月12日（推薦入試は1月15日）
- ◇国立大学の付属高校だからといって、エスカレーター式に付属大学へ進学できるわけではないので注意。（推薦枠がある学校もあり）

(4) 高等専門学校

※昨年度の例

＊5年課程の高等教育機関。卒業後は大学3年生への編入資格が得られる。

⇒理工系2分野

- ・東京都立産業技術高等専門学校

…都立だが、東京都教育委員会から首都大学東京に移管されている。

- ・上記以外にも、東京工業高等専門学校（国立）、サレジオ工業高等専門学校（私立）他がある。

都立産業技術高等専門学校について

◇推薦入試と一般入試がある

◇試験日が都立高校の一般入試より早いので、不合格になってもその後都立高校を受験できる。＊合格した場合は、その後都立高校を受験できない。

5 学校推薦を希望するにあたっての確認事項

《烏山中学校の推薦についての考え方》

都立高校や私立高校の推薦入試を受験する際は、中学校長の推薦「学校推薦」が必要です。本校では、生徒達が卒業するまでしっかりと学校生活をまっとうし、高校等に入学した後も中学校からの推薦に値する行動をすることで、下級生達の手本となってほしいと思います。そうでない場合、本人や保護者はもとより、下級生達、また相手の学校にも迷惑をかける状況が考えられます。こうした事態を避けるためにも、本校の推薦についての考え方をご理解いただき、各ご家庭でお話をさせていただきたいと思いますので、よろしくお願い致します。

(1) 推薦入試制度とは

受験当日の学力試験の結果で合否が決定されるのではなく、中学校生活における様々なことを踏まえ、学校長の責任に基づいて推薦され、主に面接や調査書を基に合否が決定される受験方法。なお、ここで取り上げる推薦入試制度とは、文字通りの公立・私立の推薦入試制度だけではなく、私立校の単願（第一志望受験のこと）など「推薦」という言葉がなくても、「校長や学校による人物保証」を求められるような場合等、受験者に何らかの有利な条件を与えてくれる制度全般を指します。

(2) 推薦の対象となる人物とは

☆当然のことながら、「中学校できちんとした日常生活を送れているかどうか」が前提条件となります。

「きちんと」と言っても難しいことはありません。当たり前のことを当たり前におこなうということを日々行っていることが大切です。

＜烏山中学校の推薦基準＞

- ① 希望校等で卒業まで目的意識をもって生活を送る、強い意志をもっていること。
- ② 中学校内外の生活において「推薦にふさわしい人物」であること。
(具体的には)
 - *授業への取り組みが真面目で、学習に前向きであること。
 - *ルールを守り、言葉遣い・服装・態度等で、日常の言動が落ち着いていること。
 - *日直・清掃・当番活動や委員会、行事などへの取り組みの中で、率先して自己の責任を果たし、周りへの貢献度が高い者。
- ③ 受験校等で求める成績等の基準を満たしていること。
- ④ 受験校等が求める出欠席・遅刻・早退等の基準を満たしていること。

本校では、学校での学習や生活の状況から判断し、現在はもちろん、卒業し進学してからも継続して努力していける生徒を推薦します。

授業や学級活動、委員会、部活動など各先生方などから推薦候補として名前の挙がった生徒を「学校推薦」に値するかどうか「推薦検討委員会」で検討し、その中で最終的に校長が決定します。その時、基本的に上に挙げたような生徒を「学校推薦する人物」としていきたいと考えています。

したがって、以下のような場合は推薦できません。

社会のルール 学校のルール について	①警察に補導されるなどの行為があった生徒 ②学校のルールを守れず、指導に従わない生徒 ③暴言や暴力、学校施設の破損などを行ったりした生徒 ④遅刻・欠席の多い生徒	特に改善が見られない生徒
学習態度について	⑤授業に対してきちんと取り組めない生徒 (妨害、私語、寝る、内職、忘れ物など)	
高校からの条件	⑥その他、高校側から指定された条件を満たしていない生徒	

また、推薦入試合格後であっても在学中に推薦に値しない言動、行動があった場合には高校へ連絡しなければならず、高校側より推薦が取り消される場合もあります。

6 進路に関する日程

学期	月	学校行事	進路関係（テスト関係）	生徒のみなさんの進路学習
1学期	4月	・保護者会（17 水）	・学習習得確認調査（15 月） ・全国学力調査（16 火）質問調査 ・全国学力調査（18 木）国語・数学	・3年生になって ・家庭学習の定着 ・年間の見通し進路に向けての流れを確認 ・1学期の生活について
	5月	・体育大会（25 土）		・進路を考え、学習と生活の計画を立てる ・計画的、効果的に学習する
	6月		・第1回進路希望調査 ・第1回進路説明会（8 土） ・期末考査（19 水～21 金）	・進路適性や将来への展望の吟味 ・期末考査に向けて ・上級学校訪問の心構え
	7月	・保護者会（13 土） ・終業式（19 金）	【進路用 生年月日・氏名確認用紙配布】 ・上級学校訪問、学校説明会、体験授業等開始	・1学期の反省 ・進路情報の理解と活用
夏休み			・上級学校訪問、学校説明会、体験授業等 ・三者面談実施（詳細は後日）	・夏休みの生活と学習
2学期	9月	・始業式（2 月）	・学習習得確認調査（5 木） ・第2回進路希望調査 ・中間考査（25 水～26 木）	・2学期の計画 ・進路選択の仕方と視点について
	10月	・修学旅行（9 水～11 金） ・学芸舞台発表会（26 土）	・第3回進路希望調査 ・学習習得確認調査（22 火） ・第2回進路説明会（29 火） ・学力テスト（31 木）	・高校選択の視点 ・適切な進路指導の選択
	11月		・進路面談①（1 金～12 火 6 水は除く） ・期末考査（18 月～20 水） ・第4回進路希望調査 ・面接指導 ・東京都英語スピーキングテスト(24 日)	・高校、各種学校、就職等、要項のチェック ・期末考査に向けて ⇒ その後の進路予定 ・進路決定に向けて ・面接の受け方 ・進路決定
	12月	・終業式（25 水）	・進路面談②（1 月～9 月） ・進路志望決定 ・入試相談（15 日～） ・出願準備 ・面接指導	・進路を決定して、冬休みの生活と学習の充実 ・将来を見通した生活の設計、進路を考える
3学期	1月	・始業式（8 水）	・進路先最終確認 ・模擬面接指導 ・私立高校推薦入試 ・都立高校推薦入試（26 日・27 月） ・私立高校願書提出 ・国立、都立等願書提出準備	・受験期の生活と心構え ・受験の心得（出願、入試、発表、手続き等） ・面接に向けての準備、学習 ・都立推薦受験のための準備
	2月		・都立高校願書提出 ・国立、高等等、発表・手続き ・私立高校一般入試、発表・手続き（併願優遇受験） ・都立高校一般入試（21 金） ・学年末考査（26 水～28 金）	・受験の心得（出願、入試、発表、手続き等） ・受験最終確認と注意（進路先最終決定） ・合格しても気を緩めないこと
	3月	・保護者会 ・卒業式（19 水）	・都立一次発表・手続き（3 月） ・都立二次出願・発表・手続き	・新しい進路先での心構え ・卒業を迎えて

※日程は予定なので、正式に発表または変更などがあった場合、進路だよりなどでお知らせします

7 今後の学校生活について

ご家庭で心がけていただきたいこと

- ◇学校からの進路関係の配布物を確認し、提出物は決められた日までに提出してください。
- ◇高校の説明会などには出来る限り一緒に参加してください。情報を多く持つことで一緒に考えることができます。
- ◇受験生だからといって特別扱いのないよう、変わらない姿勢で接してください。

生徒が心がけること

最初に『目標を決めましょう。』

高校名でなくても構いません。いつまでに、何をする。どのくらいおこなう。

どういう結果を望む。など、短いスパンでよいので、目標を考えてみましょう。

(1) 学習面

- ◇授業は真剣に受けましょう。学校での授業が基本です。(全教科を大切にする。私立受験だからといって、3教科しか勉強しないと、自分自身の可能性の幅が広がりません。)
- ◇自宅で学習する時間をつくりましょう。(3年次の学習と1, 2年の復習)
- ◇不得意教科は特に復習を始めましょう。(1, 2年の復習は夏休みまでに)
- ◇学習計画をたてて、継続的に学習しましょう。(日々コツコツと)

(2) 係、委員会、行事活動

- ◇自分から進んで活動し、責任を果たしましょう。
- ◇下級生のお手本となるよう意欲的に取り組みましょう。

(3) 生活面

- ◇心穏やかに、ゆとりをもって生活しましょう。
- ◇体調管理を心がけ、遅刻や早退、欠席をしないようにしましょう。
 - *熱がある、咳がひどいなどの場合は、無理はしないように。他の人にも影響がでます。
- ◇規則正しい生活を送りましょう。
 - *入試は朝から始まります。朝から実力が発揮できる体にしましょう。
- ◇学校のきまりを守りましょう。
 - *周りに迷惑をかけない。
 - *定期考査などで不正行為をしない。
 - *不要物を持ち込まない。
 - *服装や身だしなみ、言葉遣いなどをしっかりする。



8 その他

(1) 学校見学について（体育祭、文化祭、説明会、体験授業、個別相談など）

①手続き

- ◇事前連絡（予約）が必要な学校があります。各自で高校に確認し、許可をとっておきましょう。（中学校から連絡が必要な場合があります。その際はお知らせください。）
- ◇予約が取れないこともありますので、こまめにHPでご確認ください。
- ◇12月など入試相談直前で高校側より、日にち指定され必要な場合もありますが、平日や土曜授業の時に見学に行くのはできる限り避けていただきたいと思います。
- 調整がつかず平日等に入ってしまった場合には、必ず事前に担任へ伝えてください。

②諸注意

- ◇友達同士で訪問せず、できるだけ保護者と一緒に行きましょう。
- ◇服装は標準服です。生徒手帳を持参しましょう。
- ◇約束した時間は遅れないように、早めに到着しましょう。
- ◇高校に到着したら、まず受付に行き、中学校名と氏名を告げましょう。
- ◇担当の方には礼儀正しい態度で接し、挨拶をしっかりとしましょう。（お礼も忘れずに）
- ◇筆記用具を持参して、必要であればメモをとりましょう。
- ◇受験する可能性のある学校へは少なくとも1度は見学に行きましょう。
- ◇当日、個別相談等が行われる場合があります。担当していただいた先生の名刺をいただくか、お名前をメモしておきましょう。
- ※夏季休業中に見学（説明会など）にいくことを課題とします。

(2) 奨学金について

奨学金制度とは、進学の意欲はありながら家庭の経済事情により、進学が困難な学生が、国やその他の育英組織から学費の一部を借りて、進学を実現するための制度です。（無利子の奨学金が多いですが、有利子のものもあります）

奨学金は卒業後に返済します。そして次の世代の後輩たちの奨学金として循環されていく仕組みになっています。

中学校を通して申し込みできるものもあります。進路だよりなどでお知らせしますので、申し込み希望の場合は早めに担任までご相談ください。世田谷区以外にも都、国、日本学生支援機構などの制度もあります。（申請には提出書類が必要になります）

＊あしなが育英会 ＊交通遺児育英会 ＊東京都育英資金 など

(3) 転居に伴う他府県の公立高校受験について

- ◇中学校3年生後半に他府県に転出予定がある場合は都立高校を受験することはできません。その場合は、該当県の教育委員会に直接問い合わせをしてください。そしてその情報をもとに担任へ相談してください。
- ◇他府県の公立高校と都立高校の2つは受験出来ません。（私立高校は可能です。）

9

(順不同)

都立		
青山	杉並	日野
園芸	杉並総合	日比谷
大田桜台	世田谷泉	広尾
荻窪	総合芸術	深沢
桐ヶ丘	総合工科	府中
片倉	第一商業	府中東
国立	千歳丘	松が谷
小金井北	調布北	松原
国際	調布南	瑞穂農芸
国分寺	戸山	三田
狛江	豊多摩	南平
駒場	産業技術高専	穏ヶ丘
桜町	中野工業	芦花
杉並工科	西	若葉総合
上水	練馬工科	
新宿	農業	
神代	一橋	

私立				私立高专	都外
大森学園	駒沢学園女子	創価	日本体育大学荏原	サレジオ高专	つくば秀英(茨城)
科学技術学園	駒場学園	大成	日本大学櫻丘		金沢学院大学附属
学習院高等科	実践学園	大東学園	日本大学第二		渋谷教育学園常盤
神田女学園	品川エトワール女子	多摩大学目黒	日本大学鶴ヶ丘		常総学院
関東国際	下北沢成徳	中央大学	文化学園大学杉並		日大明誠
関東第一	自由ヶ丘学園	中央大学杉並	法政大学		藤枝明誠
京華商業	十文字学園女子	中央大学附属	堀越		山形明生
国本女子	淑徳巣鴨	帝京	朋優学院		大阪府立府天寺寺
慶應義塾	聖徳学園	東海大学附属高輪	明星学園		尚志学園
慶應義塾女子	昭和第一学園	東京家政学院	武蔵野大学		中央国際
佼成学園	女子美術大学附属	東京実業	明治大学付属中野		延岡学園
佼成学園女子	杉並学院	東京農大一	明治大学付属八王子		開志学園
國學院	成蹊	桐朋女子	明星		飛龍
國學院久我山	成城学園	新渡戸文化	目黒学院		成通経済大学付属柏
国際基督教大学	正則	日本学園	目黒日本大学		佐久永聖
国士館	正則学園	日本工業大学駒場	立正大学付属立正		土浦日大
駒込	専修大学附属	日本女子体育大学附属二軒堂	早稲田大学高等学院		西大和学園

国立
国立東京工業高専
筑波大駒場
東京工業大学附属科学技術

私立通信制				専修学校	
明聖	東海大学附属星	おおぞら高等学院	クラーク記念国際	東放学園高等専修	大竹高等専修
eスポーツ高等学院	N高等学校	中央高等学校		国際製菓	パンテンアップフードアカデミー
ヒューマンキャンパス	S高等学校	立志舎		野田緑田学園高等専修	すず学園

MEMO

[illegible]